

奈良県農業総合研究センター育成のキク品種

奈良県の小ギクは全国第2位の生産量で、平群町と葛城市周辺が主産地である。平群町では、小ギクに特化した規模拡大が進み、5～12月まで継続した出荷が行われている。葛城市では小ギク以外にも輪ギク(中大輪ギク、二輪ギク)が栽培されており、特産の二輪ギクの生産量では全国第1位となっている。

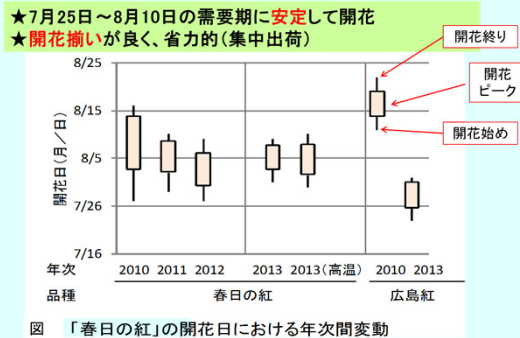
気象変動に左右されない安定した 開花特性を持つ小ギク

- ◆ 近年の温暖化傾向により、出荷時期が不安定になっている8月の盆向け品種として、高温の年でも開花時期が変動しにくい新品種を育成。



8月咲き「春日の紅」

2007年交配、2013年
品種登録



ハウス(高温区)と露地(慣行区)で同時期に開花し、開花時期の年次変動が少ない系統を選抜



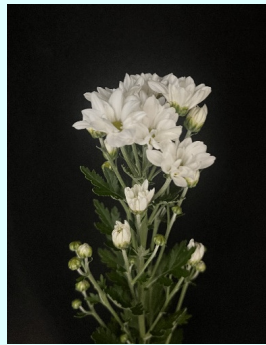
7月咲き「春日の鈴音」

2010年交配、2017年
品種登録



8月咲き「春日Y2」
【流通名：春日の星】

2012年交配、2020年
品種登録



8月咲き「春日W3」
【流通名：春日の心】

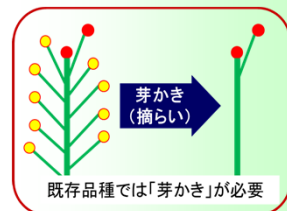
2018年交配、2025年
品種登録出願

芽かきの不要な 無側枝性二輪ギク

- ◆ 二輪ギク生産に不可欠な芽かき作業を軽減するため、無側枝性(わき芽の出にくい性質)を導入した新品種を育成。
盆・彼岸の繁忙期に重なる芽かき作業が大幅に省力化。



10月咲き「千都の舞」



わき芽

2006～2007年にかけて、無側枝性を持つ八重の大輪ギクに県内在来の二輪ギク品種を2回交配、2008～2012年に適度の無側枝性と二輪ギクらしい段差を基準に選抜して育成、2013年に出願、2016年に品種登録

開花時期が早く端境期に出荷可能な小ギク

- ◆ 県外産と市場シェアを競う端境期(5～6月)の出荷向けとして、早期出荷ができ、春の低温期でも茎が良く伸びる特性をもつ新品種を育成。



6月咲き「春日W1」
【流通名：春日の泉】

2011年に交配、2012年に日長の影響を受けない系統を選抜し、その中から開花時期が早く、茎伸長性の良い系統を選抜、2018年10月に品種登録

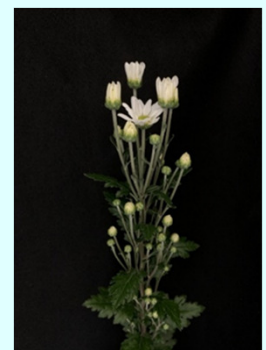


5月咲き「春日Y1」
【流通名：春日の光】



5-6月咲き「春日R1」
【流通名：春日の姫】

2014年と2015年に低温での茎伸長性に優れる中間母本と在来品種または中間母本を交配、得られた系統を選抜し、2024年12月に品種登録



6月咲き「春日W2」
【流通名：春日の空】